様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５２０２７７

研究課題名（和文）アフリカンアメリカン口頭文化の総合的研究

研究課題名（英文）African American Oral Tradition: From Slavery Time to Michael Jackson

研究代表者
ウェルズ　恵子（Wells, Keiko）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：３０２０６６２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,900,000円、（間接経費）　870,000円

研究成果の概要（和文）：1)マイケル・ジャクソンの業績から黒人文化の特質を指摘。2)奴隷制度の中で発達した口頭文化の具体的内容を概観。3)動物民話が暴力と笑いに満ち、弱者が強者をくじく物語である一方勧善懲悪の物語ではないことを詳細に分析。4)主流の価値観を逆転させた行動様式が黒人ヒーローの活躍譚にあること。5) 奴隷時代の生活上の喜びや、主人への暗黙の批判、逃亡を歌う屈折した歌を分析。6) 南部刑務所に残ったハンマーソングの歌詞の変遷に、自我のあり方や世界観の変化を指摘。7) 黒人霊歌からゴスペルへの変遷を辿り、神や救いのイメージの変化を指摘。8) 抑うつ心理からの脱出方法として、ブルーズの歌詞様式が発展したこと。

研究成果の概要（英文）：In this research I have thoroughly analyzed the following topics: 1)Michael Jackson's songs and performances in relation to African American folk tradition; 2)the significance of AA oral tradition in the context of AA culture and American culture in general; 3)violence and humor in AA folktales; 4)their adverse value system and the way AA people express themselves in double value system; 5)slave songs that express their joy in life, which was back lined by hardships, criticism on their masters, and desire for flight from slavery; 6)the change of hammer song lyrics, which show the changes of their concept of self and the other; 7)how the motives and imagery in religious songs have changed from negro spirituals to modern gospel songs; 8)blues song lyrics developed as a way of controlling psychological depression of the people.

研究分野：英米文学　比較文化　民俗学

科研費の分科・細目：文学・英米.英語圏文学

キーワード：アフリカ系アメリカ人文化　口承文学　Blues, Hammer songs　Black spirituals, Gospel　Folktales　Michael Jackson　黒人文化　音楽文化

１．研究開始当初の背景
アフリカンアメリカン文化は、ハイカルチャーとポピュラーカルチャーの区別なく歌を中心とする口頭文学に最も重要な基礎を置いている。これについては Henry Louis Gates の *The Signifying Monkey* や Paul Gilroy の *The Black Atlantic*, Lawrence W. Levine の *Black Culture and Black Consciousness* などを引き合いに出すまでもなく、異論の余地がない。しかしアメリカ社会の差別意識もあって、1990 年代に入るまでアメリカでもアフリカ系口頭文化の専門研究者は少なく、黒人文化の一次資料はたいへん手に入れにくかった。とはいえ 21 世紀になってからは、かなりのスレイヴナラティヴやフォークソング資料がデジタル化されてアーカイヴ利用できるようになり、研究の幅が広がった。そこで当該の総合的研究が可能となった。
研究従事者はこの研究以前に、「抑圧された人々や移動する人々の言語文化」に常に強い関心を持ち、この数年は「アフリカ系アメリカ人の言語文化」へと研究を展開してきた。そこで当該研究では、以前の知見を踏まえ、黒人の口頭文化史を研究した。黒人口頭文化の伝統が現代文化にどう関連しているのかを総合的に指摘する文化史をめざした。アフリカンアメリカン文化の特質を明らかにし、その特質を生み出したアメリカ社会を分析した。さらに、こうした分析によって得られた新たな知見をもって、日本の現代文化や社会の在り方を顧みつつ、アフリカンアメリカン文化についてグローバル視野で今後の展開を予測したいと考えたのが、背景である。

２．研究の目的
(1)奴隷時代からの精神的外傷の集団的記憶がどう口頭文化に記録されているのかということを読み取る。

(2)黒人のフォークテイルやフォークソングの構造と現代文学作品構成の関連の分析。

(3)黒人の古くからのストリート文化である toasts, signifying, playing the dozens とラップの関連について、とくに侮蔑表現の投げ合いの伝統に焦点を当てて分析する。

(4)現代アフリカンアメリカンの言表に特徴的なモチーフやテーマと、スレイヴナラティヴや１９世紀の黒人牧師（辻説教者を含む）の説教、ジョークなど口頭フォークロアの関連を分析する。

＜説明＞
これまで日本でのアメリカ黒人文化研究は、文学か音楽分野に特化される傾向があり、水脈となっている口頭文化の全体を把握し黒人の言語文化を総合的に読み解く研究に乏しかった。本研究はその穴を埋めようとするものである。現代の黒人文化だけを見て、そこにアメリカ黒人の集団的記憶や言語文化の伝統を読みとることは容易ではない。しかも、黒人資料の多くは人種差別によってないがしろにされてきたので、調査、保存、検討はこれからさらに研究が必要な分野である。本研究では、これまで研究の対象にならなかった一次資料をできるだけ多く検討し、伝統と記憶の問題を考察した。

３．研究の方法
本研究は、文字文学と声の文学の両方を視野に入れつつ、声の文学の重要性を意識して推進した。また、伝統的な部分と文化の同時代性を、社会との関連で明らかにしようとした。注目したのは次の分野である。
(1)口承伝統の実態と重要性に関する基礎研究、理論研究
(2)奴隷時代の口頭文化全般
(3)差別時代の民話、民謡、ジョークなどの口頭文化、ジャンル間の関連性
(4)現代との関連性に関する研究

４．研究成果
【音楽文化の移動について】
異文化からの音楽は、何らかの類似性を持つ文化へ伝播していき、不足を補う価値があるとき受容され、弱者への共感は異文化を受け入れる強い動機となる。また娯楽としての音楽は、社会の下層から上層に向けて移動し、社会階層を越境していく。加えて、ある音楽ジャンル本来の性質も境界を移動する原動力の一つとなっているが、ナショナリスティックな性質を持つ芸能が国境を渡るのには、多様な要素がクリアされないと大きな動きにならない。積極的消極的な政治的なバックアップ、文化間の互換性、人の移動、既存の文化より刺激の強い娯楽性、などが備わって初めて、大衆レベルでの音楽文化は広がっていく。現代では、インターネットによっても音楽文化は伝播するが、人の移動による音楽の伝播や文化接触による変化もまた継続すると考えられる。

【民話】
民話の語り手は、絶望的な状況で生産性を回復し希望を繋いで生き続けるために、語りによって価値観を転覆させて笑い、「よい地獄」という矛盾した場所を肯定する。語り手は必然的に、地獄は最悪だという通常の価値観と大丈夫な地獄があるという彼らの信念との二重性を負う。黒人の民話にトリックスターヒーロー以外のヒーローがいないわけは、トリックスターが異なる価値の世界を行き来するからで、黒人民話の享受者らは価値観の転覆をして世界を変えてのみ、希望が持てるのである。『騾馬・・』所収の民話には、ストーリーの中に力関係もモラルも固定しない変幻型の価値観を観察でき、強靭な笑いによっても

たらされるエネルギーの回復と対立者への許しを意識できる。

【黒人霊歌】
黒人霊歌研究に重要な文献を最も古いものから20世紀初頭まで集めた資料集『アメリカ黒人霊歌19世紀・20世紀初頭文献復刻集成』を編纂した。解説と解題で、黒人霊歌の歴史と変容を明らかにした。とくに、現実の「声」と比喩的意味での「声」の両方が人々のつながりを強め、希望につながっているという点、アフリカ系アメリカ人にとって、歌詞を含む口頭文学の存在が、希望の持続に大きく貢献していることを指摘した。

【仕事歌】
黒人の歌声は、南部育ちの白人には愛する風景の一部であり外部者には南部の大きな魅力のひとつであった。現在記録として残存する 黒人歌は､1910 年代までは黒人たちの仕事の現場で聞き取りで採録されている。採録者は、幼い頃黒人歌を身近に聞いていてその魅力 と現実的な効力を体験的に知っている白人が少なくない。20 世紀前半までの農村歌は奴隷時代の歌をよく引き継いでいて、つながりを表す特徴をそなえている。ひとつは、虫や動物のような 生き物との身近な関係が見える点である。古い黒人歌は日常のスケッチであり、自然との距離が短い。文字言語を使えず社会の動勢も 知らされない情報弱者の黒人にとって、本能的に行動する動物は重要な情報源であり学びのテクストだった。奴隷歌の流れを汲むもう ひとつの特徴は、白人批判や社会批判が寓話的にカモフラージュされ、他の話題にまぎれて何気なく歌い込まれることである。さらに 重要な特徴は、歌の多くがユーモラスなことである。笑いを誘う歌には、心身の負担を忘れ些細な出来事にも大きな楽しみを見いだそうとする感情的エネルギーがある。 鉱山や鉄道現場の労働者、波止場の荷揚げ人足、船でロープを引いたり巻き上げ機を押す船員もよく歌った。集団の重労働に携わる 人々はリズムを合わせて働かなければならないから、歌が不可欠だったのである。黒人のハンマーソングは農村の歌に並んで特別な重 要性を持っている。「フィールドハラー」とよばれる奴隷時代の歌の伝統を保っていること、歌詞に陰影が深いこと、黒人刑務所の強 制労働現場で60年代まで労働歌の機能を果たしながら歌い継がれていたこと、の三点である。19 世紀末から 20 世紀にかけてアメリ カの労働現場は急速に機械化し、黒人の仕事歌は勢いを失っていった。しかし、もっとも重労働である開墾や鉱山の採掘には、黒人男 性の受刑者が雇われそこで仕事歌が残った。

【ブルーズ】
アフリカ系アメリカ人の民謡の特質は現実から分離して形成された集団的人格の〈声〉である。ブルーズでは、アメリカ黒人が処理しきれない精神的負荷を自分から分離させて生み出し育てた陰の人格の〈声〉を聞くことができる。黒人霊歌は「神の歌」でブルーズは「悪魔の歌」だというのが通俗的な理解だが、両者は奴隷時代の記憶を核にもつ集団的人格を作者とした二種類の作品として読み解ける。ブルーズの歌詞には、「ブルーズ」という名の不透明な人格を持った登場人物がいる。「ブルーズ」は黒人の歌の中で、複数になったり単数になったり、女になったり男になったり、悪魔になったり蛇になったり犬になったりする、変幻自在のお化けのようなものである。神よりはずっと身近で、歌い手の存在証明でさえある。「ブルーズ」は歌い手を圧倒する力を持ち、この力の前で歌い手はひとりの滑稽な敗者を演じ続ける情けない男である。「ブルーズ」は黒人たちの不安や恐怖から生まれているが、緊張を緩和する声をもっている。

【総合して】
アメリカ黒人の文化は世界の大衆文化に大きな影響を与えてきた。アメリカ黒人文化は奴隷制から公民権運動に至る苦難の時代の影を色濃く残し、その経験に鍛えられて固有の発展をしてきており、それが魅力の源泉となっている。しかし一方で、どん欲に商業価値を求めて主流文化と積極的に融合、変化してきたことも事実であり、そのエネルギーと変革力もまた魅力のみなもととなっている。本研究は、奴隷制時代末期から公民権運動までの約100年間に採取された黒人の民話や歌を読み解き、現代日本にも少なからぬ影響を及ぼしているアメリカ黒人文化の特質を、ルーツから解き明かしたものである。具体的には、以下のようなことを詳しく調査分析し、著書として発表した。
(1)黒人文化のエッセンスをよく吸収しながら、メインストリーム文化に食い込んだマイケル・ジャクソンの業績を、歌詞を中心に分析することで、黒人文化の特質を浮き彫りにした。(2) 黒人文化の最重要要素は、彼らがかつて文字の学習機会にめぐまれなかったため口頭文化を発展させたことであると指摘。その具体的内容を概観した。(3)黒人の動物民話をとりあげ、それが暴力と笑いに満ち、 弱者が強者をくじく物語である一方、いわゆる勧善懲悪の物語ではないことを詳細に分析した。(4)主流社会の価値観を逆転させた価 値観と行動様式を、黒人ヒーローの活躍譚に読み取った。(5) 奴隷時代における生活上の喜びや、主人への暗黙の批判、逃亡を歌う屈折した歌を分析した。(6) 南部の刑務所に 20 世紀半ばまで残ったハンマーソングの歌詞の変遷を読み解き、奴隷時代から現代にかけて 、時代の変化とともに黒人の自我のあり方や世界観が変化したことを指

摘した。(7)黒人霊歌からゴスペルへ歌詞の変遷を辿り、神や 救いのイメージの変化を指摘。(8)病的な抑うつ心理からの脱出方法として、ブルーズの歌詞様式が発展したことを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3　件）

①ウェルズ恵子、Folktales を読む ---物語の力、立命館言語文化研究 25 巻 3 号 23-40 頁、査読無、2014 年

②ウェルズ恵子、笑いと回復のための語り：ゾラ・ニール・ハーストンの「騾馬と人間」を読む、立命館言語文化研究 23 巻 1 号 15-29 頁、査読無、2011 年

③ウェルズ恵子、「ブルーズ君」の語ること―初期カントリーブルーズの歌詞を読むー、『岩波　文学』11 巻 6 号 88-106 頁、招待論文、2010 年

〔学会発表〕（計　4　件）

①ウェルズ恵子、マイケル・ジャクソンの歌詞を読む、日本比較生活文化学会第 29 回全国大会、単独発表、2013 年 11 月 9 日、立命館大学

②ウェルズ恵子、いまにも生きる民話の力：「ウサギとカメ」イソップ、日本、アメリカ黒人版、立命館大学土曜講座、2013 年 11 月 2 日、立命館大学

③ウェルズ恵子、"I've got the blues": The Symbolic Usage of "Blues" in African American Folk Songs、International Ballad Conference、単独発表、2012 年 10 月 10 日、Akyaka,Turkey

④ウェルズ恵子、音楽文化の移動を促す力について、日本アメリカ史学会第 7 回（通算 35 回）年次大会、シンポジウム講師、2010 年 9 月 18 日、東京女子大学

〔図書〕（計　3　件）

①ウェルズ恵子、魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化のルーツへ、岩波書店、2014 年 2 月、200

②ウェルズ恵子、アメリカ黒人霊歌　19 世紀・20 世紀初頭文献復刻集成、ユーリカプレス、2012 年 2 月、全 3 巻解題 1-19

③里内克己（編著）、ウェルズ恵子、他 3 名（著）、バラク・オバマのことばと文学――自伝が語る人種とアメリカ、彩流社、2011 年 9 月、281（227-277）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
ウェルズ　恵子（Wells, keiko）
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：30206627

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：